

第3回 障害者自立支援協議会（会議録）

1 日 時

令和4年（2022年）11月24日（木）13:30～16:00

2 場 所

障害福祉センターひまわり 会議室、リモート（井上委員）

3 案 件

1. 各連絡会からの報告
2. 各部会からの報告
 - (1) 地域課題検討部会
 - (2) 地域包括ケアシステム推進部会
3. コロナ禍におけるサービス継続、課題検討のための協議について
4. その他

4 出席者（順不同）

(1) 委 員

- 会 長 上田 哲郎（少路障害者相談支援センター）
副会長 謝 世業（柴原障害者相談支援センター）
委 員 森嶋 翼（豊中市障害児通所支援事業者連絡会）
委 員 井上 康（えーぜっと）
委 員 小西 文明（豊中精神障害者当事者会 HOTTO）
委 員 鍋島 康秀（ピープルウォーク）
委 員 中村 知（豊中市身体不自由児者父母の会）
委 員 松田 勝紀（豊中市障害児者日中活動事業者連絡会）
委 員 星屋 好武（豊中市手をつなぐ育成会）
委 員 坂田 沙知子（豊中市障害相談支援ネットワークえん）

(2) 事務局

- 杉本 博一（中央障害者相談支援センター）
藤原 靖浩（庄内障害者相談支援センター）
河本 真樹（障害福祉課 障害福祉センターひまわり 相談支援擁護係長）
中田 安紀（障害福祉課 障害福祉センターひまわり 相談支援擁護係）
岩崎 剛（障害福祉課 障害福祉センターひまわり 相談支援擁護係）

(3) 傍聴者

なし

(4) 欠席者

委員 芳賀 大輔（豊中市障害者就労支援連絡会）
渡邊 亮（豊中市障害者居宅介護・移動支援事業者連絡会）
水上 さゆり（豊中市障害者グループホーム事業者連絡会）
中島 正恵（豊中市手をつなぐ育成会）

—開 会—

事務局 (欠席者報告、資料確認)

会 長 (開会の挨拶)

こんにちは。季節が変わりコロナの感染者が増えています。十分気を付けないといけないと思います。協議会としてできることは、協議の場で意見を挙げることか
と思いますので、今日もいろんなご意見が出てくることを願っています。今日もよろしくお祈りします。

案件1. 各連絡会からの報告

委 員 <障害相談支援ネットワークえん>

年4回の全体会議で、9月14日に北野先生を招き、相談員のための勉強会の第1回目を行いました。次回は12月14日に第2回目の勉強会を行う予定。中身は相談員の仕事はどこまでという相談員の声から、基本相談から計画相談をテーマに行っている。相談支援が抱えている課題として、相談支援事業所が減ってきている。4月から基幹相談支援センターが7圏域に分かれて、豊中市の相談支援体制を強めていこうということが目的だが、相談支援事業所が減っている現状で、支援体制が弱ってきていることが課題。新規で計画相談に入って欲しいとの当事者・家族の声になかなか応えていけないのが現実で、自立支援協議会でも取り扱い検討していただけたらと思う。

事務局 <居宅介護・移動支援事業者連絡会>

現状動きはない。連絡会が主催・共催ではないが、感染症研修を夏前に行った。12月も研修を行う予定。

事務局 <グループホーム事業者連絡会>

BCP(事業継続計画・避難確保計画)の研修を3回目/全3回を11月に行った。毎回20名弱の参加があった。令和6年度にどの事業所でも義務化されるため、先生をお呼びして理解を深めた。1月以降の予定はまだ決まっていないが、振り返りと意見交換をしながら進めていくこととなる。

委員 <障害者日中活動事業者連絡会>

年3回全体会を行い、11月11日に2回目を2年振りに集まって開催できた。なかなか開催できなかったが、就労移行や就労B型など新しい事業所の参加が多かった。「コロナ禍での利用者への対応について」「コロナ禍での工賃の確保について」「コロナ感染者が出た場合の対応について」グループワークを行った。課題を話し合ったが、豊中市内の他の事業所の状況がわからないので、集まるだけでも不安感が取れて非常にありがたいという意見があった。共有の場にしていけたらと思う。今また感染者が増えている中、対応の判断は事業所でしてほしいと言われるが、その判断に非常に迷うところも課題としてあがっていた。

事務局 <就労支援事業者連絡会>

年6回全体会議、年6回役員会議を行っている。直近は11月10日に茨木市にあるヤマト運輸の特例子会社に見学に行っている。23名が参加され、取り組みについて勉強する。次回は1月12日に「障害者の雇用状況について」ハローワークの雇用指導課の方に来ていただき報告いただく。また他市の先進的な事例を学ぶことを目的として大阪市と寝屋川市の就労移行事業所、B型事業所を招く予定。

委員 <障害児通所支援事業者連絡会>

10月11日と11月15日に事業者連絡会を開催した。10月11日は久しぶりの対面で23事業所28名が集まり、3つのテーマに分かれて意見交換会を行う。各事業所が抱えている課題や困っていることについて共有したり模索するきっかけになったのではと思う。意見交換会の発表後に市内の3つの事業所で成功事例の発表を行っている。それぞれどのような取り組みをされているか、やり方等事業所に戻って生かせる内容の発表を聞くことができた。11月15日は西宮市の児童通所支援連絡会顧問のフルカワ氏に、障害児通所支援の質について自分たちで高める工夫について講演していただいた。26事業所で46名がズームで参加された。西宮での取り組みとして、連絡会の加盟する事業所がお互いの事業所を評価する「相互評価制度」という仕組みを作り実践されていることが大変印象に残っている。評価といってもダメな点を挙げるのではなく、決して否定せず事業所の良いところを見つけることで、それぞれの事業所が否定的な感情を持たず評価したりされたりする関係になっている。豊中市の事業者連絡会に対するエールもいただき、皆で考えて盛り立てていくことが来年度以降の私たちの取り組みの原点になると認識した。来年度は役員会や豊中市こども相談課と話し合いを経てになるが、コロナ禍で行えていなかった対面での意見交換会や各事業所がどのように工夫して児童と接しているかについて発表する場を多く作り、それぞれの事業所を理解するところから始めていければと考えている。

(「えん」からの相談支援事業所が減ってきている現状の呼びかけについて)

委員 相談員が減っていく現状は仕組みに問題があるのかな。相談員の仕事は大変重要だと思うが、抱えている仕事の範囲が大変で疲弊して辞めていく現実がある。相談員同士の連携があれば何とかやっていけるのかなと思うが、相談支援事業だけ単独で経営していこうとなると現実難しいところがあり、増えていかない原因の一つと思う。

委員 児童の場合、保護者が疲れたり生活が行き詰まってきている家庭が増えてきている印象があり、セルフプランの保護者の場合は相談支援事業所をお勧めするようにしている。通所支援事業所だけで抱え込まず、相談支援が入ることで様々な制度や私たちが理解していないサービスを提案いただけるのでありがたいが、減っていくことについては子どもの生活が成り立ちにくくなるので課題と思う。

委員 相談支援事業所が減っていつているが、重要な役割を果たしておりこれからもっと重要になる。事業所が減るには原因があるのか。人の問題、事業所として費用の問題。少々の赤字でもやっていこうというそれなりに余裕のある事業所がだんだん減ってきている。そうすると行政に対してどうしていくのかという問題を提示していく必要がある。もう一つは、高齢化していく中でもっと多岐に渡って相談内容が増えてくると思う。今現在事業所が減っている状況の中で、利用者・養護者から問題点としてあがってきているのかという問題もある。利用者に対しての問題があるのかなのか、今の状況の中で総合支援体制に不安があるのであれば意見を集約しなければ変わっていかないので、課題を掴むことは重要と思う。

委員 例えば相談対象人数に対して、相談員や事業所が何人・何ヶ所減って等の数字を出していき、適正な数としてこれくらいが望ましいというところで、自立支援協議会や行政に対し補完するものを具体的をお願いする必要がある。

委員 7つの基幹センターがセルフプランの方のサポートをしているのが現状。計画相談を希望されても、セルフプランのサポートをすることで7つの基幹センターが計画相談と同じような動きで相談員が動いている。50%くらいがセルフプランで、児童になると80%くらいで、家族や本人から相談員が付いて欲しいという声になかなか届いていない。きちんとした数字と原因は何かといったこと、利用者・家族から問題としてあがってきたことなど探れればと思う。自立支援協議会でも引き続きこの問題について一緒に考えていただきたい。

行政 正確な数字はお示しさせていただくようにします。大阪府の会議に出席した際に、40%台後半で概ね50%でこの推移はあまり変わっていない。他市状況は様々だが、同規模の中核市で80%近くの自治体があれば、20%の所もあり差がある。全般的に豊中が突出して多いという認識はない。他市も同じような状況が続いており、全国的な課題ではある。皆さんから意見をいただいているところはしていないといけないと思っている。

会長 「えん」からの意見に関して、相談支援専門員だけでなく、福祉職全体の課題かなと思う。相談支援も介護も両方必要なもので、この自立支援協議会で意見を言っていないといけないことだと思う。福祉職の人材不足に対しては早急にいろんな障害者関係の協議会と行政、団体で話し合っていないといけないと思う。

案件2. 各部会からの報告

(1) 地域課題検討部会

部会長 (【資料1-①】を用いて説明)

委員 2と3で×になっているが、ニーズについて本人にわかるように説明すると×が△や○になったりするのでは。

部会長 本人と記載しているが、アンケートを直接本人に聞いて回答いただくことは困難なため、本人の支援に携わっている家族、支援者に本人ならどう答えるかという支援者目線ではなく本人目線のところから答えていただいた結果である。

委員 強度行動障害についての問題点は課題として取り上げて動いていると思うが、強度行動障害の方の受け皿が足りない、専門の人材育成の課題があり要望も上がっている中、対応として制度的に支援者が駆けつけるものが出来上がっているかどうか。どういった人が駆けつけてくれるのか、そこからの整理が必要。「スムーズな緊急ショート利用」については、なかなか簡単に来てくださいというのは少ない。体制を調べていき、自立支援協議会の中でどうするのか、何が必要なのかを検討、作っていく必要がある。事業所が拠点整備の中で出来上がっているのか足りないのか、また支援員・専門員の養成が進んでいないのか全て結びついてくると思う。制度や仕組みがなければ、支援体制は×になってくる。これからの大きな課題かと思う。

行政 整備状況等について、支援者駆けつけ対応は「地域定着支援」が類似した事業で平成30年から「自立生活援助」のサービスが始まる。利用は「自立生活援助」は市内1か所、「地域定着支援」は正確な数はわからないが概ね20後半から30くらい。事例として「地域定着支援」を利用している数は少ないのが現状。

「スムーズな緊急ショート利用」について、豊中市の短期入所の定員に対しする利用率は100%を超えておらず概ね8割くらい。コロナもあってこの2年間は利用が横ばい。

強度行動障害の研修は毎年大阪府が行っていて、豊中市からも毎年受講していただいている。

委員 「支援者駆けつけ対応」の支援者に○が入っているところは、支援者もどなたか支援者に駆けつけてほしいということで合っているか。

部会長 はい。支援者も助けてほしいというところ。アンケートでは実際されているところもあるが、ある事業所はどう対応しているかわからず、経験豊富な事業所の応援をもらい、どう支援をするというバックアップする仕組みがあれば助かるという声があった。

部会長 緊急時支援と自立生活について、今後も皆さんからご意見をいただけたらと思っているが、全体会議では集中した議論が難しい部分もあるので、部会としては皆さんと一緒に意見を出していただける場を設定したく、その際はお声がけをさせていただきますので、ご協力をお願いします。

***通学支援の報告**

部会長 【資料1-②③】を用いて説明)

委員 2つ質問があります。小学校に比べて中学校の利用が少ないのはどういう理由か。もう1つは通学支援にヘルパーが入ることで子どもたちと関わりがどう変わったかありますか。

部会長 小学校で使っている方が療育手帳をお持ちの方が多く、予想だが小学校までは地域の学校を通学して中学校で支援学校に進路を変えていることが考えられる。

ヘルパー利用する上で子どもとの関わりについて、コーディネーターの相談員が関わり始めたところなので、今後現場から情報があがってくると考えられる。

委員 通学支援の話と逸れるが、説明の中で中学校の生徒の利用状況が小学校から中学校の進学の中で支援学校に行くことが理由とあったが、良い悪いは別で地域の学校へ通うのが豊中の特徴だったが、支援学校へ行かれる方が多くなってきたとすれば、理由はどこにあるのか。通学支援の話とは外れるので今話し合わなくて構わないが、どういう理由があるかは協議会で把握しておく必要があると思った。

(2) 地域包括ケアシステム推進部会

部会長 (【資料2】を用いて説明)

委員 地域移行について、精神科の場合はまだまだ精神科病院で何かのサポートがあれば退院できるかもしれないことがあり、入院患者とピアサポーターの交流もできればと思う。

部会長 コロナの影響により病院に入れず患者も出られず人と人との直接交流が厳しい状況があると聞いている。地域移行に関しても協議の場の中で話はされていて、何かしらひと押しあれば退院できるのではないかと、退院をしてしっかりと受け止められる地域づくりを今考えるべきなのではないかなど、入院中の方をどう支えていくかは協議の中でテーマとしてあがっているので、協議をしていきたい。

委員 就労ワーキングについて質問。「えん」にワーキングで声掛けいただいているが会員に呼びかける時のコアなテーマを具体的に教えてほしい。相互理解や現状の相談体制作りの話はいただいたが、事例として当事者の方の困りごとについて話をしていくなど協議する内容について。

部会長 コアなテーマのところ、当事者の方の困りごととしては具体的に何に困っているかが見えてこない現状がある。今回取り上げている就労ワーキングでヒアリングさせていただいた方からスタートと考えていただけたら。何に困るかは漠然としている状況だが誰かに支えてほしいと思っている。ここに困っているところを発信することはまだイメージ化できていない方々が多いのがヒアリングの結果。困っていることがあればそこをキャッチして動くのが相談支援になるが、そうでない方が多い中そこをキャッチする場合、支援者側の動きが非常に重要になると考え、今のテーマになっている。

委員 当事者の方は何に困っているか見えていない現状なのか、支援者が困るだろうというところなのか。

部会長 当事者が困っているからこれが課題というのはすごく大事な取り組みだが、当事者の方がしっかり認識できていれば SOS を出せているはずだが、出しにくい方を支える地域が「地域ケアシステム」として大事になる。何かあったときにキャッチして適切に繋がれていく仕組みを作りどう支えていくのかが大きな枠組みとなっていく。まずは支援者の中で地域の力を高めていき、当事者が困っていることにしっかり支援を提供できる足がかりになればと考えている。

委員 ワーキングの中でここに絞って意見を聞こうということが出てくると参加しやすくなるが、いろんな要素がある。

事務局 いただいた意見を踏まえながら取り組みを進めていただきたい。

案件 3. コロナ禍におけるサービス継続、課題検討のための協議の場について

事務局 (【資料 3】を用いて説明)

委員 2 点。検査キットの配布は妊婦・高齢者・基礎疾患がある方は該当しないと書いてある。医療ひっ迫の時に医療機関に辿り着けない時の具体的な対策に言及されていない。

市への連絡の件で、PCR の確定診断で医療機関が認定した上で通報すべきか、事業所が持っている抗原キッドで陽性になってからなのかの基準があるかを示してほしい。

案件 4. その他

・豊中市第六次障害者長期計画・第 7 期豊中市障害福祉計画第 3 期豊中市障害児福祉計画策定に向けた市民アンケート調査結果の中間報告について

事務局 (【資料 4】を用いて説明)

概要版で資料を付けています。メールで 100 頁程ある分を送付していますが、分量が多く印刷はしていないが、施策推進協議会でも同じものを出すので何かありましたら連絡ください。ご確認よろしく申し上げます。

委員 1月7日の日本経済新聞の朝刊と夕刊に、1つは「入所施設で地域移行が進まない現状はどうか」もう1つは「入院患者が入院する時に付き添いは1人のみとして親が付き添っている現状はどうか」ということが私たちの会に新聞を見られた方から問い合わせがあった。それぞれの事業所でそういう状況についてご意見を聞いて教えていただければありがたい。よろしくお願いします。

事務局 何かあれば事務局に一報入れていただければと思います。

会長 (閉会の挨拶)

いろいろ今日は意見が出たかと思います。両方の部会の報告でみても計画は誰のためのものか今日は考えないといけないと思いました。通学支援の話でも課題があると思う。皆さんで協力し合って1つでも課題を乗り越えていきたいと思っています。またよろしくお願いします。

事務局 次回の全体会議の日程ですが、2月16日になります。1ヶ月前に開催通知と概ね1週間目にその時点で揃っている資料を送付いたしますので宜しくお願いします。進行では不手際があり大分時間が超過してしまい申し訳ありませんでした。次回もよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

—閉 会—